

第四章附表中、食鹽ノ下ニ又ハ醬油越越スヲ加フ  
 第五十二條中、第二十九條ヲ第五十條ニ改ム  
 第五十三條第一項中、再ハ營内居住トナリタルトキ又ハヲ削ル  
 第五十四條第一ノ割註中、下標ノ二字ヲ削リ第三ヲ左ノ如ク改メ第四第五ヲ削ル  
 三 營内居住ノ下士營外居住ニ轉シ被服ヲ自辨セシムル者ニハ豫テ給與ノ最新被服一揃ヲ給與シテ之ヲ改修或ハ交換シテ之ヲ交付ス其ノ解出者被服ノ製式ヲ異ニスルトキハ該隊ノ經理内身以テ改修或ハ交換シテ之ヲ交付スルモトス但シ憲兵科ニ轉スル者ノ被服ハ其ノ儘携持セシメ憲兵隊ニ於テ之ヲ改修或ハ交換スルモノトス

第五十五條 憲兵上等兵ノ被服ハ本令第十三表ニ掲グルモノノ外自辨セシムルモノトス  
 第五十六條 各隊ニ於ケル下士候補生徒ノ被服ハ委任經理ノ内ヲ以テ支辨スルモノトス  
 第五十七條中、給シ被服代金ハ其ノ翌月ヨリ支給スヲ給スニ改ム  
 第五十八條 營外居住ノ下士ニシテ軍隊ニ附屬中背囊、飯盒、水筒等ノ必要アル場合ニ在テハ該隊貯藏品ヲ以テ貸與スルモノトス

第五十九條 削除  
 第六十條第一項ニ在ノ但書ヲ加フ  
 但シ修理ニ要スル費用ハ入學及分遣部隊ノ經費ヲ以テ實費支辨スヘシ

第六十四條中、下士以下ノ下士ニ被服自辨ノ割註ヲ加フ  
 第六十五條中、下士以下ノ下士ニ被服自辨ノ者及代金給與ノ者ヲ除クヲ加ヘ但書ヲ削ル  
 第六十六條第一項中、准士官ノ下士營内居住者ヲ除クノ割註ヲ削リ第二項中「正衣袴、肩章、軍衣袴」ヲ「絨衣袴

附則  
 明治三十三年勅令第四百四十三號附則第二項ノ特別増俸ハ陸軍武官官等表改正ノ爲辭令ヲ用ヒス  
 シテ任セラルタル官等ニ在ル間ニ限リ附表ノ金額ヲ給ス

附表 特別増俸

職名	分	月 額	
		營外居住者	營内居住者
監理(一等給)ヨリ曹長(一等給)ニ任セラレタル者		五圓九十九錢	四圓六十八錢
同上ノ者ニシテ特別俸ニ適ミタル者		三圓八十九錢	
監理(二等給)ヨリ曹長(二等給)ニ任セラレタル者		四圓二十八錢	三圓九十七錢
同上ノ者ニシテ一等給ニ適ミタル者		二圓七十八錢	一圓四十七錢
同上ノ者ニシテ二等給ニ適ミタル者		六十八錢	
監理(一等給)ヨリ一等階士長(一等給)ニ任セラレタル者		二圓九十九錢	一圓六十八錢
同上ノ者ニシテ特別俸ニ適ミタル者		八十九錢	
監理(二等給)ヨリ一等階士長(二等給)ニ任セラレタル者		一圓三十八錢	
位階次長ヨリ一等階士(一等給)ニ任セラレタル者		二圓一錢	



同上ノ者ニシテ一等給ニ進ミタル者	五十一錢
一等軍曹(二等給)ヨリ軍曹(二等給)ニ任セラレタル者	二十八錢
諸工長ヨリ二等諸工長(二等給)ニ任セラレタル者	四圓二十一錢
同上ノ者ニシテ一等給ニ進ミタル者	二圓七十錢
諸工下長ヨリ二等諸工長(四等給)ニ任セラレタル者	三圓三十一錢
一等軍樂手(一等給)ヨリ二等樂手(一等給)ニ任セラレタル者	一圓八十錢
縫工、靴工ヨリ二等縫工、二等靴工ヲ命セラレタル者	七錢
營内居住ノ者ニシテ營外居住ニ轉スルトキハ本表増俸ノ支給ヲ止ム	八錢
	十二錢

○陸軍部百三十九號

臺灣島及澎湖島駐紮陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正シ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十二年十一月三十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第三條第一項中「通譯加俸ハ第十三表ニ」ヲ削リ第二項中「給シ通譯加俸ハ通譯ヲ命セラレタル日ヨリ之ヲ免セラレタル日迄」ヲ削ル

第五條第二項中「通譯加俸」ヲ削ル

第九條第二項中「特務曹長ノ割註ヲ削ル

第十六條 守備隊下士被服自辨者ヲ除ク兵卒ノ携持品及其ノ補填並駐紮中備附被服ノ定數ハ第五表ニ依ル但シ補填品及歸還者ノ携持品ハ原隊ノ委任經理ニ屬ス

憲兵上等兵現品給與ニ係ル携持品及駐紮中給與若ハ貸與ノ定數ハ第六表ニ依ル但シ駐紮中給與

ノ品種ハ歸還ノ際携持セシメ其ノ儘應用セシム

被服自辨ノ下士ニ在テハ駐紮中品種ニ依リ現品ヲ貸與ス其ノ定數ハ第六表ニ依ル

第十九條 各兵ヨリ憲兵上等兵ニ轉シ臺灣憲兵隊ニ赴ク者ノ被服ハ時服ヲ著裝セシメ憲兵隊ニ於テ改修或ハ換給シ第六表ノ携持定數ニ充實セシムヘシ

第二十條 守備隊下士被服自辨者ヲ除ク兵卒及憲兵上等兵ノ被服補修料ハ第九表ノ金額ヲ用途トシ實費支辨スヘシ

被服自辨者貸與被服ノ補修ハ實費ヲ以テ支辨スヘシ

第二十一條 本規則第十一條ノ特種ノ被服ハ附表第十表ニ依リ現品ヲ以テ別途ニ之ヲ交付シ其ノ外套ハ歸還ノ際返納セシメ襦袢腹卷ハ其ノ儘應用セシム

第二十二條中「特務曹長及」ヲ削リ「下士以下」ノ下ニ「被服自辨者ヲ除ク」ノ割註ヲ加フ

第二十九條、第三十條及第三十六條割註中「備員以下給料支給規則」ヲ「雇員備員給料支給規則」ニ改ム

第五表、第六表及第十一表ヲ別表ノ如ク改ム

第十表中「特務曹長」ヲ削リ「將校同相當官」ノ下ニ「准士官」ヲ加フ

第十三表 削除

第十四表中「一等軍曹」ヲ「軍曹」ニ「二等軍曹」ヲ「伍長」ニ改ム

第五表

品目	摘	要	
		携持數	駐紮地給與數
第二種帽		一箇	一箇
被衣袴		二組	一組
			補填數
			一箇







品名	第一種	第二種	第三種	第四種	第五種	第六種	附 破 服							
							蚊	枕	敷	蒲	包	厚毛布	携帶天幕	
携持ノ破服ヲ以テ駐劄中應用セシメ別ニ該地ニ於テ支給セサルモノトス故ニ携持被服ハ總テ保存確實ノモノヲ携持セシム	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
駐劄地ニ於ケル給與區別	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第六表

携持ノ破服ヲ以テ駐劄中應用セシメ別ニ該地ニ於テ支給セサルモノトス故ニ携持被服ハ總テ保存確實ノモノヲ携持セシム

一 携持ノ破服ヲ以テ駐劄中應用セシメ別ニ該地ニ於テ支給セサルモノトス故ニ携持被服ハ總テ保存確實ノモノヲ携持セシム

二 歩兵科下士兵卒ニハ駐劄中一箇年間ニ足袋一足及草鞋四足ヲ加給スルコトヲ得

三 駐劄地備用品ノ保存期限ハ第六表ノ規定ニ同シ但シ胸當前垂及履靴ハ實際ノ損破ニ依リ毎年給與シ作業頭巾同衣袴ノ保存期限ハ二箇年間トス

四 襦袢袴下ノ内一組ハ冬季用ヲ通用スヘシ

五 砲兵科下士兵卒ニシテテ小銃ヲ携帶セサル者ニハ麻雜瀝ヲ給セス

六 被服自辨ノ下士ニシテ隊伍ニ列シ派遣ノ者ニ要スル背襖(兼入襖)水筒携行毛布ハ該隊ニ於テ貸與スルモノトス

品名	第一種	第二種	第三種	第四種	第五種	第六種	第七種	第八種	第九種	第十種	附 備 地 割 駐							
											携行	雨	外					
携持天幕	草鞋	足袋	認識票	縹帶包	背負袋	革前垂	水筒	飯骨柳(兼入襖)	麻雜瀝	革雜瀝	第三種背瀝	第一種背瀝	第二種背瀝	第一種背瀝	携行毛布	雨襪	外套	夏衣袴
各兵各部下士 憲兵上等兵								各兵各部下士 憲兵上等兵	歩工兵下士	砲兵下士諸工長計手 衛生部下士	憲兵下士上等兵	憲兵下士	憲兵隊附蹄鐵工長					
一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇
携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎 年二組ヲ給ス



考 備	服				厚毛布(二枚)	包布	靴
	敷	枕	敷	靴			
一 出役ノ際所持スヘキ定數ハ各自所持品中新品若ハ前送保貯品ナルモノヲ維持セシムヘシ							
二 憲兵隊ニハ下士私器馬用トシテ拍車若干組ヲ備附ケ必要ノ際使用セシム							
三 携行毛布ハ出役ノ際樂船地(半馬)ニ補給廠支應若ハ出張所ニ於テ受領シ歸還ノ際ハ同所ニ返納スルモノトス							
							一組ヲ備附ケ八箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
							各一箇ヲ備附ケ四箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
							一組ヲ備附ケ二箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
							一箇ヲ備附ケ三箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
							一箇ヲ備附ケ五箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス

第十一表

官 名	在 隊	加 俸	月 額
伍 長(短期)	金 八	十	四 銀
一 等 兵	金 七	十	二 銀
一 等 卒	金 六	十	銀
二 等 卒	金 四	十	八 銀

○陸軍第百四十號

明治二十三年陸軍第百六十九號達陸軍章圖中「調劑助手」ヲ「調劑助手」ニ改メ「看守卒」ノ前ニ左ノ一畫ヲ

加フ

明治三十三年十一月三十日

衛生部下  
士候補生



(品質ハ純純)

陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省達第百八十一號

海軍武官待命休職停職者心得左ノ通定ス

明治三十三年十一月一日

海軍大臣山本權兵衛

海軍武官待命休職停職者心得

- 第一條 待命休職停職者ハ東京ニ滞在スヘシ但滞在地ヲ指定セラレタルモノハ此限ニアラス
- 第二條 待命休職停職者ハ海軍大臣ノ直轄トス但鎮守府所在地ニ滞在スルモノハ當該鎮守府司令長官ノ所轄トス
- 第三條 待命休職停職者ハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケ東京又ハ鎮守府所在地ニ滞在地ヲ轉スルコトヲ得
- 第四條 待命休職停職者ハ其ノ傷痍疾病旅行轉居及其ノ他戶籍上ノ異動等ニ關シテハ海軍一般ノ規定ニ依ルヘシ但海軍部内ノ文官ニ專任シタル休職者ハ戶籍上ノ異動ヲ報告スルノ外本條ニ依ルコトナシ
- 第五條 待命者ハ毎月一回所轄廳ニ出頭シ備付ノ待命者名簿ニ捺印スヘシ但傷痍疾病若ハ旅行中ノモノハ全快屆若ハ歸著屆ヲ爲スノ際出頭シ捺印スヘシ
- 第六條 待命休職停職者ハ所轄廳ニ就キ海軍部内ノ諸令達(内令省達官房號達)ヲ便宜閱覽シ諒知スヘキモノトス



第七條 待命休職停職者ニシテ補職ノ辭令ヲ受ケタルトキハ速ニ出發シ其ノ旨海軍大臣ニ届出ヘ

○海軍省達第八十二號

明治二十八年十月達第百一十一號海軍武官待命休職條例ヲ廢ス

明治三十三年十一月一日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第八十三號

艦團部隊需用品定額表中左ノ通追加ス (追加略ス)

明治三十三年十一月十三日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第八十四號

臺灣島及澎湖島駐在海軍軍人軍屬給與規則施行細則中左ノ通改正ス

明治三十三年十一月二十七日

海軍大臣山本權兵衛

第一條中「但」以下ヲ但増給ハ進給増俸減俸ノ場合ニ於テ本則ニ明文ナキモノハ總テ其ノ俸給給與ノ區分ニ依ル又航海加俸ヲ給スルトキハ重複ニ増給ヲ支給セスニ改メ第四ノ次ニ左ノ如ク追加ス

五 臺灣島若ハ澎湖島内ニ在テ轉任スル者ニハ其ノ俸給給與ノ區分ニ依ル

第四條但書中「公暇」ノ下ニ「忌引」ノ二字ヲ加フ

第二十條第一項ヲ左ノ如ク改ム

規則第十二條ノ宿舍料ハ貸與スヘキ家屋ナキトキ又ハ貸與ヲ不便トスルトキニ限リ第二表ノ金額ヲ支給ス其ノ給與區分ハ本則第一條ノ例ニ依ル但第一條第五ニ該當スル者ニハ就職ノ日ヨリ

若ハ現勤務ヲ離ル、日マテ之ヲ支給ス

○海軍省達第八十五號

軍事費演習費支出規程第二條中六ノ次ニ左ノ通追加シ七以下順次繰下ク

明治三十三年十一月二十七日

海軍大臣山本權兵衛

七 防禦材料費 演習ノ爲メ特ニ要スル防禦材料

○海軍省達第八十六號

海軍軍醫學校規則中左ノ通改正ス

明治三十三年十一月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

第八條中「一月十日」ヲ「四月一日」ニ「一月九日」ヲ「三月三十一日」ニ改ム

〔參照〕

海軍省達第九十二號海軍軍醫學校規則(明治三十三年五月十六日)抄録  
第八條 學年ハ毎年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終ルモノトス

○海軍省達第八十七號

雇員備人規則第三條別表中職名ノ下ニ「柔道教員」ノ一欄ヲ設ケ該欄中海兵團ノ部ニ「若ハ」ニヲ加フ

本達ハ明治三十三年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十三年十二月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第八十八號

雇員備人給與規則別表備人給料最上表中「日給一圓」ノ欄割烹ノ前ニ「柔道教員」ヲ加フ



本達ハ明治三十二年十一月一日ヨリ施行ス

明治三十二年十一月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

○宮内省達乙第一號

來明治三十三年一月 皇太子殿下葉山御用邸ニ御滞在ニ付高等官及有爵有位華族ノ輩ハ新年賀表ヲ同所ヘ向ケ差出スヘ

明治三十二年十二月二十六日

宮内大臣子爵田中光顯

○宮内省達甲第八號

明治二十六年<sup>三</sup>宮内省達甲第一號中職務ニ就キタルトキノ下ニ又ハ皇族職員中家扶家從ニ任セラレ俸給ヲ受クルトキノ二十四字ヲ追加ス

明治三十二年十二月二十七日

宮内大臣子爵田中光顯

奉 勅

〔參照〕

宮内省達甲第一號(明治二十六年三月二十八日)  
宮内省ヨリ恩給ヲ受クル者宮内省ヨリ一定ノ俸給ヲ受クル職務ニ就キタルトキハ其間恩給ヲ停止ス

○宮内省達乙第二號

宮内省官吏准官吏恩給例施行規則第一條及宮内省官吏准官吏遺族扶助例施行規則第一條ヲ削除シ第二條ヲ第一條トシ第三條以下遞次繰上ク

明治三十二年十二月二十七日

宮内大臣子爵田中光顯

〔參照〕

宮内省達第二十號(明治二十三年十月九日)抄録

宮内省官吏准官吏恩給例施行規則

第一條 宮内省官吏恩給例第二條同准官吏恩給例第一條ニ掲ケタル官吏准官吏トハ當中ニ奉仕スルト省務ニ從事スルトヲ



同ハス宮内省ヨリ俸給ヲ給與スル者及皇族職員中宮内省ヨリ俸給ヲ給與スル者ヲ云フ

第一條 宮内省官吏准官吏遺族扶助例施行規則 第二條 宮内省官吏准官吏遺族扶助例第一條ニ掲ケタル官吏准官吏ハ宮内省ヨリ俸給ヲ給與スル者ヲ云フ皇族職員モ亦同シ

○宮内省達乙第三號

「ベスト」病流行ノ兆アル左ノ府縣ヲ發シ又ハ經由シテ著京シタル者ハ九日間ヲ經テ沐浴更衣ノ上ニ非サレハ參内スヘカラス

各離宮各御殿各御用邸(地方所在ノ御邸ヲ包含ス)參入ノ者亦同シ

大阪府 兵庫縣 長崎縣 靜岡縣 福岡縣 廣島縣 和歌山縣  
宮内大臣子爵田中光顯

明治三十二年十二月二十九日

○陸達第四百一十一號

明治二十九年陸達第五百一十一號四項中士官學校生徒隊ノ下ニ同校教官、砲工學校教官ノ十字ヲ加ヘ同項中教導團砲兵生徒隊ノ八字及第五項中教導團輜重兵生徒隊ノ九字ヲ刪除ス

陸軍大臣子爵桂 太郎

明治三十二年十二月一日

〔參照〕

明治二十三年五月十日 陸達第五百一十一號ハ乘馬本分者中當分乘馬ヲ飼養セシメサル者ノ件ナリ

○陸達第四百一十二號

明治二十九年四月陸達第五十四號蹄鐵工下長適任證書附與規則中「蹄鐵工下長」ノ四字ハ凡テ「蹄鐵工長」ノ四字ニ改メ第三條中「獨立野戰砲兵大隊」ノ九字ヲ削除ス

陸軍大臣子爵桂 太郎

明治三十二年十二月一日

○陸達第四百一十三號

明治二十八年陸達第二十五號要塞司令部服務規則中左ノ通改正ス

明治三十二年十二月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

本規則中「砲工兵方面支署長」ヲ「兵器支廠長及築城部支部長」ニ「砲臺監守」ヲ「砲臺監守」タル分課下士ニ改ム

第二條中其十ヲ「要塞地帶法」ノ實施ニ改ム

第十一條中「砲臺及附屬營造物」ヲ「國防用防禦營造物」ニ改ム

第十二條ヲ削ル

第十三條第一項ヲ「砲臺監守」タル分課下士ハ常ニ堡壘砲臺ノ内部若クハ其附近及彈藥本庫附近ニ居住シ防禦營造物ノ取締ヲナシ其鍵鑰ヲ管守シ要塞備附兵器彈藥及器具材料ヲ監守スルモノトスニ改ム

〔參照〕

陸達第二十五號要塞司令部服務規則(明治二十八年四月六日)抄録

第二條 要塞司令部ハ戰時實行スヘキ左ノ諸件ニ關シ其方法ヲ規畫スヘシ

其十 外國人及要塞ノ保安ニ妨害アリト認ムル者ヲ防禦線外ニ退去セシムル方法

第十一條 砲工兵各方面支署長ハ砲臺及附屬營造物ノ建築修理兵器彈藥其他防禦用諸材料ノ交換修理増減等ニ關シテハ要塞司令部ニ報告シテ後實行スルモノトス

第十二條 工兵方面支署長ハ砲臺内ニ出入ノ許可ヲ得タルモノ、人名ハ其時々之ヲ要塞司令部ニ報告ス

第十三條第一項

砲臺監守ハ常ニ堡壘砲臺ノ内部若クハ其附近及彈藥本庫ノ附近ニ居住シ堡壘砲臺若クハ倉庫ノ取締ヲ爲シ其鍵鑰ヲ管守シ要塞備附兵器彈藥及器具材料ヲ監守スルモノトス

○陸達第四百一十四號

軍隊教育順次教令左ノ通改正ス

明治三十二年十二月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎



軍隊教育順次教令

總則

- 第一條 本令ハ歩騎砲工輜重兵隊ニ於テ毎年履行スヘキ教育ノ大綱ヲ示スモノトス但臺灣及外國駐衛ノ軍隊ニアリテハ情況ノ許ス限リ本令ヲ準用スヘキモノトス
- 第二條 教育順次表ハ専ラ兵卒教育ニ必要ナル課目ノミヲ載スルモ兼テ幹部ノ練習ニ資スヘキモノトス殊ニ術科ハ實際用兵ノ唯一ナル科目ナルヲ以テ之ニ依テ併セテ幹部練習ノ效ヲ收メサル可ラス
- 第三條 乘馬隊訓練ノ成績ハ大ニ馬匹ノ良否ニ關ス故ニ教育年第一期間ニ於テハ古馬ニモ亦調教矯正ヲ加ヘ馬匹ヲシテ常ニ軍馬所要ノ性能ヲ保タシムルヲ要ス
- 第四條 教育順次表中各兵ニ通シテ同一ノ課目ヲ記載スルモノアルモ固ヨリ其全般ヲ修メシムルニ非ス各其本科ニ要スル程度ニ鑑ミ斟酌取捨シテ以テ本科ノ任務ヲ達スルニ必要ナル程度ニ止ムルモノトス又各兵科中若干ノ兵卒ニ限リ教育スヘキ課目ハ特ニ順次表中ニ記載セサルヲ以テ各特別ノ規定ニ依リ之カ教育ヲ行フモノトス
- 第五條 教育順次表中第二期以下ノ區畫ニ於テ第何期ノ課目ト記載シアルハ悉ク其課業ノ實施ヲ要スルニ非ス唯未熟ノ課目及射擊等施行ノ順序アルカ如キ延テ次期ニ教育スヘキ課業ニ限ルモノトス學科モ亦之ニ準ス
- 第六條 毎年十二月上旬ヨリ翌年十一月下旬迄ヲ教育年ト曰フ
- 教育ノ要旨
- 第七條 軍人精神ヲ體シ兵器ノ使用ニ熟シ上官ノ指揮ニ從ヒ一致正格ニ行動スルハ兵卒首要ノ任

務ナリトス軍隊教育ノ目的ハ兵卒ヲシテ此有形無形ノ技能性格ヲ修得シ以テ其任務ヲ全クセシムルニ在リ

第八條 教育ハ指致ト薰陶ヲ兼ネ兵卒ヲシテ學術ノ習得ト心性ノ修養ヲ全クシ又課業ハ其順序難易ヲ考慮シ適度ニ之ヲ定メ全幅ノ心力ヲ以テ教訓ヲ迎ヘ進ンテ業務ニ從ハシムルヲ要ス

第九條 軍人ハ健強ナル體力ヲ有テ初テ能ク其任務ヲ全クスルヲ得ヘシ故ニ兵卒ノ教育ハ其技能性格ヲ修養スルト共ニ體力ノ發達ヲ圖リ他ノ教育ト相疎テ完全ナル戰闘ノ起動力ヲ養成セサル可ラス

第十條 戰闘演習ハ教育ノ首要ナルモノナリ教育進歩ノ程度ニ應シ履之ヲ野外各種ノ地形ニ行ヒ又夜間ニ於ケル戰闘其他ノ動作ハ大ニ晝間ト其趣ヲ異ニスルヲ以テ時々之ヲ實際ニ試ミ各種時機ニ應スル應用ノ能力ヲ發達セシムルヲ要ス

第十一條 行軍中ノ軍紀風紀歩法裝法及勞働ニ慣熟セシムル爲メ履行軍ヲ行ヒ又時機之ヲ許セハ汽車船舶ノ乗卸ヲ行ヒ軍隊及材料ノ載卸ニ習ハシムルヲ要ス

第十二條 一三二年兵ノ教育課目ハ殆ント初年兵ノ課目ト一致セシムト雖モ順次其程度ヲ高メ益々之ニ練熟セシムルヲ要ス故ニ第一期間ニ在テモ時機之ヲ許セハ聯(大)隊ノ一三二年兵ヲ編合シテ教練ヲ行ヒ若クハ諸兵連合ノ演習ヲ施行シ益々戰闘力ノ長成ヲ圖ラサル可ラス

現役兵ノ教育

第十三條 教育ハ中隊ヲ以テ單位トシ之ヲ數個ノ教育班ニ分ツ

第十四條 現役兵ノ教育順次ハ附表第一乃至第九ニ依ル

第十五條 現役兵入營セシ時ヨリ第一期末ノ檢閱終ルマテヲ教育上ニ於テ之ヲ新兵ト稱ス



第十六條 初年兵第一期中ハ専ラ教育ヲ主トシ諸勤務ヲ免除スヘシ  
 第十七條 初年兵ノ内ニ於テ鼓手及喇叭手ニ採用スヘキモノハ第一期(警備隊ニアリテ)ヲ終レハ其演習ニ從事セシム  
 第十八條 游泳、水馬及漕艇術ハ各地ノ氣候ヲ斟酌シテ施行スルモノトス  
 第十九條 初年兵ニハ第一期中ニ於テ喇叭ノ諸號音ヲ聽習セシムヘシ  
 第二十條 中隊以上ノ部隊ヲ以テスル教練及演習ハ各年兵ヲ合シテ行フモノトス  
 第二十一條 聯(大)隊長ハ新兵ノ教育ヲシテ齊一ナラシムル爲メ毎年新兵入營前ニ於テ新兵掛教官及助教ヲ集メ少佐若クハ大尉ヲシテ之ヲ教習セシムヘシ  
 第二十二條 聯(大)隊長ハ必要ト認ムル課目ニ就キ第一期ノ終リニ於テ二三年兵ヲ檢閲シ各年兵ノ成績ヲシテ齊一ナラシムルコトヲ圖ルヘシ  
 第一補充兵ノ教育  
 第二十三條 第一補充兵ノ教育順次ハ附表第十乃至第十二ニ依ル  
 第二十四條 第一補充兵ノ教育ハ専ラ軍人精神ヲ涵養シ戰時勤務竝ニ戰鬥動作ヲ修得セシムルヲ主眼トシ平時勤務ノ如キハ必須缺ク可ラサル要件ノミニ止ムルモノトス  
 第二十五條 第一補充兵在營中ハ専ラ教育ヲ主トシ諸勤務ヲ免除スヘシ  
 第二十六條 第十八及第十九條ノ要旨ハ第一補充兵ニモ準用ス  
 檢 閱  
 第二十七條 凡テ檢閲ヲ行フ上官ハ自ラ課業ヲ命シ之ヲ檢閲シ其成績ヲ講評シ且所要ノ意見ヲ當該團隊長ニ訓示スルモノトス

第二十八條 部下團隊長檢閲ヲ行フ場合ニハ上官務メテ臨場シ其成績ヲ講評シ且其意見ヲ團隊長ニ訓示スルモノトス  
 第二十九條 師團長、旅團長、警備隊司令官、聯隊長及大隊長檢閲ヲ行フニ方リ直上ノ上官臨場セサルトキハ其成績ニ關シ筆記ノ報告ヲ各其直上ノ上官ニ呈スヘシ  
 但騎兵、砲兵、工兵、輜重兵ニアリテハ旅團長、警備隊司令官、聯(大)隊長ヨリ當該兵監ニ報告スルモノトス

第一表

歩兵一箇年間教育順次表

期	第一	年 學		科	學	科
		初 年	兵			
二十	二	初 年	兵	上	初 年	兵
十	一	二 年 兵	及 三 年 兵			
三	リ	同	同	上	初 年	兵
月	下	同	同			
旬	下	同	同	上	初 年	兵
迄	旬	同	同			

各個教練  
 體操  
 射擊豫行演習  
 距離測量  
 狹窄射擊  
 小隊教練  
 射擊  
 野外演習  
 銃劍術  
 聯隊長ノ檢閲

勅諭  
 各種兵ノ識別及性能  
 團隊編制ノ概要  
 上官ノ官姓名  
 武官ノ階級及制服  
 軍隊內務種類及起因  
 軍隊內務式ノ概要  
 軍刑法及懲罰令ノ摘要  
 武器器具被服裝具ノ名稱及手入法  
 野外要務令ノ摘要  
 射擊教範ノ摘要

初年兵第一、第二、第三期ノ課目



期二第	期三第	期四第	期五第	期六第	備考
迄月中旬五	迄月下旬六	迄月中旬九	迄月中旬十	迄月下旬一十	
第一期ノ課目 中隊教練 工作	第一期ノ課目 大隊教練	第一期、第二期ノ課目 聯隊長ノ檢閱	第一期、第二期、第三期ノ課目 游泳及禮儀術 聯隊長ノ檢閱	第一期、第二期、第三期、第四期ノ課目 旅團教練 師團長ノ檢閱	第七、第八及第九師管下駐ニ新發田、村松、福知山、鳥取屯在ノ聯隊ニアリテハ第一、第二期ヲ合シテ教育シ其第一期檢閱ヲ四月ニ於テ行フコトヲ得 旅團中兩聯隊ノ衛戍地遠隔スルトキハ旅團教練及其檢閱ハ秋季演習中ニ於テスルモ妨ケナシ 聯隊長ハ八月若クハ九月ニ於テ器械體操及銃劍術ノ檢閱ヲ行フ但シ他ニ支障アルトキハ大隊長ヲシテ代テ檢閱セシムルコトヲ得
同	同	同	同	秋季演習	
第一期ノ課目 衛兵勤務 赤十字條約ノ大意 救急法ノ概要	第一期、第二期ノ課目 聯隊歴史ノ大意	第一期、第二期、第三期ノ課目	第一期、第二期、第三期ノ課目	同	
同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	
右	右	右	右	右	

第二表

騎兵一箇年間教育順次表

學年	學科	學期	期一第	期二第
次	術	術	迄月上旬二十	迄月下旬七
初年兵	術	初年兵	徒步各個小隊教練 體操 軍刀術 射擊操行演習 距離測量 狹徑射擊 射擊 乘馬各個教練 聯隊長ノ檢閱	第一期ノ課目 野外演習 徒步中隊教練 乘馬中隊教練 破環作業 聯隊長ノ檢閱
二年兵及三年兵	科	初年兵	同上ノ課目 乘馬小隊教練 野外演習	第一期ノ課目 徒步中隊教練 乘馬中隊教練 破環作業
初年兵	學	初年兵	勅諭 各種兵ノ識別及性能 國隊編制ノ概要 上官ノ階級及姓名 勳章ノ種類及起因 聯隊歴史ノ概要 救急法ノ概要 陸軍禮式ノ概要 陸軍刑法及懲罰令ノ概要 武器、器具、被服裝具ノ名稱裝法及手入法 馬術ノ概要 馬術教範第一部ノ概要	第一期ノ課目 野外要務令ノ摘要 衛兵勤務 赤十字條約ノ大意
二年兵及三年兵	科	二年兵及三年兵	初年兵第一、第二期ノ課目 馬術教範第二部ノ概要	第一期ノ課目



考 備	期 五 第	期 四 第	期 三 第
	迄旬下月一十	迄旬中月十	迄旬中月九
一 聯隊長ハ所要ニ應シ第一期間適宜ノ時期ニ於テ初年兵ノ水勅演習ヲ檢閲スルモノトス 二 近衛騎兵ニ在テ槍ノ操法ハ第二期ヨリ行フモノトス 三 二年兵ハ游泳水馬術ト共ニ演習ヲ行フコトヲ得 四 旅團ヲ成サ、ル騎兵聯隊ニ在テハ旅團長檢閲及旅團教練ヲ行ハス而シテ第三、第四期ヲ通シテ第三期トシ第五期ヲ第四期トス	秋季演習	師團長ノ檢閲	旅團長ノ檢閲
	同	同	同
		上	上
		右	右

第三表 野戰砲兵一箇年間教育順次表

學 年	學 科	學 科	學 科
術	科	學	科
徒歩教練		勅諭 設法 各種兵ノ識別及性能	

期 三 第	期 二 第	期 一 第
迄旬中月十	迄旬下月七	迄旬下月三ヨリヨ旬上月二
師團長ノ檢閲	聯隊長ノ檢閲	聯隊長ノ檢閲
第一、第二期ノ課目	第一期ノ課目	第一期ノ課目
部隊教練(聯隊)	馬術 取法教練 工作 游泳及水馬術	砲操 照準法 拳銃ノ操法及射擊 野外演習
同	第一期ノ課目 部隊教練(大隊)	同上ノ課目
上	第一期ノ課目 衛兵勤務 手入法 馬術ノ摘要 火工物ノ名稱及構造 赤十字條約ノ大意 聯隊歴史ノ概要	國隊編制ノ概要 上官ノ階級及姓名 軍章ノ種類及起因 軍隊内務ノ摘要 陸軍禮式ノ摘要 軍刑法及懲罰令ノ摘要 武器、馬具、鞍馬具、被服、裝具ノ名稱裝法及手入法 馬體ノ名稱手入及飼養 彈藥及火具ノ種類取扱 野外要務令ノ概要
第一、第二期ノ課目	同	初年兵第一、第二期ノ課目
同	右	右



第四期	備考
迄旬下月一十 秋季演習	<p>一 第一期中野砲兵ハ馬場山砲兵ハ取法教練ヲ教ニルコトヲ得</p> <p>二 野砲初年兵ノ部隊教練及ヒ野外演習ハ第一期ニアリテハ取法ヲ除ク 北海道、弘前及金澤屯在ノ聯隊ニアリテハ第一期、第二期ヲ合シテ教育シ其第一期檢閲ヲ四月ニ於テ行フコトヲ得</p> <p>三 二年兵ハ游泳水馬術ト共ニ潛艇術ヲ行フコトヲ得</p> <p>四 照準手ノ撰拔検査ハ射擊演習前ニ於テ行フコトヲ得</p> <p>五 第三期ノ射擊ハ第四期ニ於テ行フコトヲ得</p> <p>六 砲兵旅團ニ於ケル第三期ノ檢閲ハ旅團長ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得</p> <p>七 三年兵ニハ適宜ノ時機ニ於テ騎銃ノ操法及射擊ヲ教ユヘシ又拳銃射擊ハ第二若クハ第三期ニ繰下ケ施行スルコトヲ得</p>

第四表

砲兵輸卒教育順次表	
學期	術
第二	<p>徒歩教練(各個及成列教練)</p> <p>體操</p> <p>砲操</p>
學	科
勅諭	<p>各種兵ノ識別及性能</p> <p>軍隊編制ノ概要</p> <p>上官ノ官姓名</p> <p>武官ノ階級及服制</p> <p>勳章ノ種類及起因</p>

第一	第二	備考
期	二	期
月	二	月
積載	第一期ノ課目	一 担包積載作業ハ担包積載教範中彈藥縱列及大行李ニ必要ナルモノニ限り砲操法ハ野山砲ノ手一時ノ補充ニ堪ヘ得ルヲ度トス
輜重教練	砲操法	
聯隊長ノ檢閲	野外演習	
	聯隊長ノ檢閲	
	第一期ノ課目	軍隊内務書ノ摘要 陸軍禮式ノ摘要 陸軍刑法及懲罰令ノ摘要 武器、車輛、馬具、輜具、裝具ノ名稱、裝法及手入法 馬體ノ名稱、手入及飼養法
	第一期ノ課目	第一期ノ課目 車輛、野外修理法ノ摘要 照準、火具ノ種類及取扱法 野外要務令ノ摘要 衛兵勤務ノ摘要

第五表

要塞砲兵及砲兵助卒一箇年間教育順次表		
年	學	術
學	期	次
初	年	兵
二	年	兵及三年兵
初	年	兵
二	年	兵及三年兵



期四第	期三第	期二第	期一第
迄旬中月十	迄旬中月九	迄旬下月六	迄旬下月三
師團長ノ檢閱 射撃教練 聯隊長ノ檢閱	同 上 第一、第二期ノ課目 聯隊長ノ檢閱	同 上 第一期ノ課目 野射演習 砲台演習 中隊演習 小銃演習 聯隊長ノ檢閱	同 上 海軍砲操法 同照準法 輕砲操法 同照準法 小銃射撃演習 小銃教練 聯隊長ノ檢閱
右	右	右	初年兵第一、第二、第三期ノ課目

考備	期五第
七六五四三二一	迄旬下月一十
砲兵助卒ノ教育ハ修得ノ難易ヲ顧慮シ適宜取捨スルモ妨ケナシ 初年兵第一、第二期間ノ砲操法ハ基準砲ヲ用ヒ第三期ヨリ爾餘諸砲ノ操法ニ移ル 徒歩教練ハ歩兵操典ニ據ル但シ中隊教練ハ力陣中隊隊形ノ射撃及散開隊次ヲ除キ大隊聯隊教 練ハ概兵式ニ必要ナルモノハ、ミヲ行フ 二年兵及三年兵ノ術科課目ハ演習用材料ノ都合ニ依リ各期ノモノヲ繰上ケ又ハ繰下クルモ妨 ケナシ 砲台及砲臺要塞砲兵大隊ニアリテハ第一、第二期ヲ合シテ教育シ其第一期檢閲ヲ四月ニ於テ 行フコトヲ得 第四期ノ射撃ハ第五期ニ於テ行フコトヲ得 聯隊ヲ成サ、ル要塞砲兵隊ニ在テハ聯隊教練ヲ行ハス又聯隊長ノ檢閲ハ大隊長之ヲ行ヒ第三 第四期ヲ通シテ第三期、第五期ヲ第四期トス而シテ大隊長ハ九月中旬ニ於テ第三期課目中、大 隊教練及射撃ヲ除キ他ノ課目ニ就キ檢閲ヲ行フ	第一、第二、第三、第四期ノ課目 秋季演習

工兵一箇年間教育順次表

年	學	科
初年	二年兵及三年兵	初年
各箇教練 體操 射撃演習 距離測量 狹窄射撃 銃術	同上ノ課目	初年兵第一、第二、第三 期ノ課目
各種兵器ノ種類及性能 砲台ノ構造及起因 上級ノ官制及起因 武官ノ官制及起因 軍隊内務及起因 陸軍禮式ノ摘要	同上ノ課目	初年兵第一、第二、第三 期ノ課目







考備	期五第	期四第	期三第	期二第
三二一	迄旬下月一十	迄旬中月十	迄旬中月九	迄旬下月六
初年兵ノ騎馬各個教練及重騎積載ハ駐馬各個教練及駐馬積載終ル後ヨリ第二期ニ互リ施行ス 初年兵乗馬各個教練ハ第二期ニ互リ施行ス但輕ノ保持法大勳用法及乘馬武器ノ操法第一期ノ 終リ迄ニ其要領ヲ教ニルヲ要ス 北海道弘前(仙臺)及金澤也在ノ大隊ニアリテ第一期第二期ヲ合シテ教育シ其第一期檢閲ヲ四 月ニ於テ行フコトヲ得	秋季演習	師團長ノ檢閲	大隊長ノ檢閲	大隊長ノ檢閲
	同	同	同	同
	同	同	同	同
	同	同	同	同
	同	同	同	同

第八表

輜重輸卒教育順次表

期二第	期一第	學期	學術
月箇一	月箇二	術	科
第一期ノ課目 積載(車輛ノ部) 部隊教練(騎馬ノ部) 野外教練(騎馬) 野外演習(騎馬) 大隊長ノ檢閲	各個教練(徒歩、駐馬、騎馬ノ部) 體操 捆包 積載(駐馬ノ部) 部隊教練(徒歩小隊及駐馬ノ部) 野外教練(駐馬) 野外演習(駐馬) 大隊長ノ檢閲	術 科	學 科
第一期ノ課目 車輛野外修理法 衛兵勤務ノ摘要	各種兵ノ識別及性能 軍隊編制ノ概要 上官ノ官姓名 勳章ノ種類及起因 軍隊內務ノ概要 陸軍禮式及懲罰令ノ概要 武器、駐馬具、車輛、騎具、被服、裝具ノ名稱、裝 法及手入法 馬體ノ名稱、手入及飼養法 野外勤務ノ概要		
第一期ノ課目 車輛野外修理法 衛兵勤務ノ摘要			



第九表

警備隊步兵教育順次表		學年	
第一次		第二次	
術科	學科	術科	學科
第一 第一 第一 各箇教練 體操 射擊操行演習 距離測量 狹窄射擊 小隊教練 射擊 野外演習 銃術 隊長ノ檢閱		第一 第一 第一 各種兵ノ識別及性 能 上級官ノ姓名 勳章ノ種類及起 因 軍隊內務ノ概要 陸軍禮式及懲罰 令 陸軍刑罰及懲罰 令 武器器具ノ被服 裝具ノ名稱裝法及 手 入法 野外要務令ノ概要 射擊教範ノ概要	
第二 第二 第二 第一期ノ課目 中隊教練 大隊教練 工作 隊長ノ檢閱		第一 第一 第一 第一次兵第一期ノ 課目 游泳及潛艇術 第一次兵第一期ノ 課目	
第三 第三 第三 第一期ノ課目 衛兵勤務 赤十字條約ノ大意 救急法ノ概要 大隊歴史ノ大意		第二 第二 第二 第一次兵第二期ノ 課目	
第四 第四 第四 第二期ノ課目 游泳及潛艇術 隊長ノ檢閱		第三 第三 第三 第二次兵第一期ノ 課目	
第五 第五 第五 第二期ノ課目 游泳及潛艇術 隊長ノ檢閱		第四 第四 第四 第二次兵第二期ノ 課目	

第十表

步兵第一補充兵教育順次表		學年	
第一次		第二次	
術科	學科	術科	學科
第一 第一 第一 各箇教練 體操 射擊操行演習 距離測量 狹窄射擊 小隊教練 射擊 野外演習 銃術 隊長ノ檢閱		第一 第一 第一 各種兵ノ識別及性 能 上級官ノ姓名 勳章ノ種類及起 因 軍隊內務ノ概要 陸軍禮式及懲罰 令 陸軍刑罰及懲罰 令 武器器具ノ被服 裝具ノ名稱裝法及 手 入法 野外要務令ノ概要 射擊教範ノ概要	
第二 第二 第二 第一期ノ課目 中隊教練 大隊教練 工作 隊長ノ檢閱		第一 第一 第一 第一次兵第一期ノ 課目 游泳及潛艇術 第一次兵第一期ノ 課目	
第三 第三 第三 第一期ノ課目 衛兵勤務 赤十字條約ノ大意 救急法ノ概要 大隊歴史ノ大意		第二 第二 第二 第一次兵第二期ノ 課目	
第四 第四 第四 第二期ノ課目 游泳及潛艇術 隊長ノ檢閱		第三 第三 第三 第二次兵第一期ノ 課目	
第五 第五 第五 第二期ノ課目 游泳及潛艇術 隊長ノ檢閱		第四 第四 第四 第二次兵第二期ノ 課目	



期	聯隊長ノ檢閲
考備	一 聯隊長ノ檢閲ハ對馬警備隊ニ在テハ大隊長之ヲ行フ

第十一表

考備	一 山砲隊ニアリテハ馬術ヲ省略シ山砲隊法教練ヲ教育スルヲ要ス 二 野砲部隊教練ハ砲手ノ課業ノミトス
月	聯隊長ノ檢閲
箇	徒歩教練 (各團及成列教練)
三	體操 砲操法 照準法 馬術 (初歩) 部隊教練 野外演習
學	勅諭 各種兵ノ識別及性能 國隊編制ノ概要 上官ノ階級及姓名 武官ノ階級及姓名 軍隊內務ノ種類及起因 陸軍禮式ノ概要 陸軍刑法及懲罰令ノ概要 武器器具ノ種類及名稱 野戰要務令ノ概要 築城學ノ概要 野戰要務令ノ概要 軍路學ノ概要 架橋學ノ概要 赤十字條約ノ大意
科	科

第十二表

考備	工兵第一補充兵教育順次表
月	大隊長ノ檢閲
箇	各個教練 體操 射擊操行演習 距離測量 狹窄射擊 小隊教練 射擊 野外演習 築城術 軍路術 架橋術
三	各個兵ノ識別及性能 國隊編制ノ概要 上官ノ階級及姓名 武官ノ階級及姓名 軍隊內務ノ種類及起因 陸軍禮式ノ概要 陸軍刑法及懲罰令ノ概要 武器器具ノ種類及名稱 野戰要務令ノ概要 築城學ノ概要 野戰要務令ノ概要 軍路學ノ概要 架橋學ノ概要 赤十字條約ノ大意
學	科
科	科

○陸軍部第四十五號

下士用刀及輜重兵刀ノ第二級及長釣草條 附屬金ヲ廢ス  
但シ各其管理ノ軍事費兵器彈藥費ノ内ヲ以テ漸次修正スヘシ

明治三十三年十二月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎



明治三十二年十二月 陸軍省陸軍部第四十六號 陸軍部第四十七號 陸軍部第四十八號  
陸軍部第四十九號 陸軍部第五十號 陸軍部第五十一號

四六六

○陸軍部第四十六號

要塞砲兵射擊學校學生ハ明治三十三年第一回分遣ノ者ニ限リ同年二月中旬ニ入校セシム

明治三十二年十二月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第四十七號

明治二十年陸軍部第三號陸軍看護學修業兵教科書第一編勤務學ノ部中左ノ通改正ス (改正略ス)

明治三十二年十二月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第四十八號

明治三十年陸軍部第二十五號陸軍看護病人教科書第一編勤務學ノ部中左ノ通改正ス (改正略ス)

明治三十二年十二月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第四十九號

明治二十六年陸軍部第五十五號擔架術教科書中左ノ通改正ス (改正略ス)

明治三十二年十二月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第五十號

三十年式歩兵銃及騎銃保存法別冊ノ通定 (別冊略ス)

明治三十二年十二月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第五十一號

三十年式歩兵銃使用ノ諸隊ニ在テハ歩兵操典中銃ノ使用ニ關スル部分ヲ別冊三十年式歩兵銃使用  
法草案ニ依リ實施スヘシ (別冊略ス)

明治三十二年十二月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第五十二號

陸軍看護卒教科書別冊ノ通定 (別冊略ス)

明治三十二年十二月二十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第五十三號

明治三十二年陸軍部第三十三號中左ノ通改正ス

明治三十二年十二月二十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第七項中「特務曹長ヲ除ク」ノ割註ヲ削リ第十項但書ヲ左ノ如ク改ム

但臨時電信部附電信建築工手及遞信省在職在役者ヨリ採用シタル雇員備人ニシテ第八項ニ依リ  
解雇(備)スヘキ者ハ病院長ハ病況書ヲ作り軍務局工兵課長ニ送付シ同課ニ於テ解雇(備)ノ手續  
ヲナスモノトス

〔參照〕

明治三十二年一月 陸軍部第三十三號ハ臺灣及海外駐留部隊ヨリ廣島衛戍病院へ輸送スル患者ノ取扱方ナリ

○陸軍部第五十四號

二十六年式拳銃使用法別冊ノ通定 (別冊略ス)

明治三十二年十二月二十六日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第五十五號

三十年式騎銃使用ノ諸隊ニ在テハ騎兵操典中銃ノ使用ニ關スル部分ヲ別冊三十年式騎銃使用法草  
案ニ依リ實施スヘシ (別冊略ス)

明治三十二年十二月二十六日

陸軍大臣子爵桂 太郎

明治三十二年十二月 陸軍省陸軍部第五十二號 陸軍部第五十三號  
陸軍部第五十四號 陸軍部第五十五號

四六七



明治三十二年十二月 遼 陸軍省陸軍部第四十六號 陸軍部第四十七號 陸軍部第四十八號  
陸軍部第四十九號 陸軍部第五十號 陸軍部第五十一號

○陸軍部第四十六號

要塞砲兵射擊學校學生ハ明治三十三年第一回分遣ノ者ニ限リ同年二月中旬ニ入校セシム

明治三十二年十二月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第四十七號

明治三十年陸軍部第三號陸軍看護學修業兵教科書第一編勤務學ノ部中左ノ通改正ス (改正略ス)

明治三十二年十二月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第四十八號

明治三十年陸軍部第二十五號陸軍看護病人教科書第一編勤務學ノ部中左ノ通改正ス (改正略ス)

明治三十二年十二月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第四十九號

明治二十六年陸軍部第五十五號擔架術教科書中左ノ通改正ス (改正略ス)

明治三十二年十二月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第五十號

三十年式步兵銃及騎銃保存法別冊ノ通定 (別冊略ス)

明治三十二年十二月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第五十一號

三十年式步兵銃使用ノ諸隊ニ在テハ步兵操典中銃ノ使用ニ關スル部分ヲ別冊三十年式步兵銃使用  
法草案ニ依リ實施スヘシ (別冊略ス)

明治三十二年十二月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第五十二號

陸軍看護卒教科書別冊ノ通定 (別冊略ス)

明治三十二年十二月二十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第五十三號

明治三十二年陸軍部第三十三號中左ノ通改正ス

明治三十二年十二月二十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第七項中特務曹長ヲ除クノ割註ヲ削リ第十項但書ヲ左ノ如ク改ム

但臨時電信部附電信建築工手及遞信省在職在役者ヨリ採用シタル雇員備人ニシテ第八項ニ依リ  
解雇(備)スヘキ者ハ病院長ハ病況書ヲ作り軍務局工兵課長ニ送付シ同課ニ於テ解雇(備)ノ手續  
ヲナスモノトス

(參照)

明治三十二年一月陸軍部第三十三號ハ臺灣及海外駐留部隊ヨリ廣島衛戍病院へ輸送スル患者ノ取扱方ナリ

○陸軍部第五十四號

二十六年式拳銃使用法別冊ノ通定 (別冊略ス)

明治三十二年十二月二十六日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第五十五號

三十年式騎銃使用ノ諸隊ニ在テハ騎兵操典中銃ノ使用ニ關スル部分ヲ別冊三十年式騎銃使用法草  
案ニ依リ實施スヘシ (別冊略ス)

明治三十二年十二月二十六日

陸軍大臣子爵桂 太郎

明治三十二年十二月 遼 陸軍省陸軍部第五十二號 陸軍部第五十三號  
陸軍部第五十四號 陸軍部第五十五號



○陸軍第五十六號

陸軍現役將校列次名簿編纂規則左ノ通定メラル

明治三十二年十二月二十六日

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍現役將校列次名簿編纂規則

- 第一條 陸軍將校列次名簿ハ將官及各兵科將校一聯ノ列次ヲ定ルモノトス
- 第二條 同一官等者ノ列次ハ實役停年ノ新古ニ依リ同日任官ニシテ兵科ノ異ナル者ハ前任官若クハ前々任官ノ順序ニ據リ同一兵科ノ者ニ在テハ官報登錄ノ順序ニ據ル
- 第三條 兵科ノ異ナル將校ニシテ數回ノ任官同日ナルトキハ年齢ノ高キ者ヲ上トス
- 第四條 同一兵科ニシテ同日任官ノモノハ官報登錄ノ順序ニ據リ他兵科ニシテ同日任官ノモノハ前官若クハ年齢ニ據ルコト第二條第三條ノ如クナルヲ以テ某兵科ノ上位ヲ占ル者前任官ノ停年低クシテ次位以下ニ停年高キ者アルトキハ他兵科ニ於ル停年低キ者ノ下位ニ列ス
- 第五條 三十一年以後任官ノ少尉ニアリテハ一ニ官報登錄ノ順序ニ據ル
- 第六條 臺灣ニ在勤セシ將校ハ停年ヲ加算スルモ本名簿ハ此加算ノ爲メニ本分ノ列次ヲ換ヘス
- 第七條 休職停職將校ハ本名簿ニ登錄セス
- 第八條 其他年月日ノ算法ハ停年名簿ニ於ルト異ナルコトナシ但位勳功及族籍ハ停年名簿ニ讓リ記入セス
- 第九條 本名簿ハ毎年十二月一日調ヲ以テ編纂スルモノトス

○陸軍第五十七號

今般各兵一等諸工長ヲ設置セラレ候ニ就テハ二等蹄鐵工長二等縫工長二等靴工長ニシテ明治三十

二年七月一日調ニ於テ其進級停年最下限ニ達シタル者ハ此際臨時調製スル所ノ拔擢候補名簿ニ據リ進級セシムルコトヲ得ルコトニ定メラル

明治三十二年十二月二十六日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第五十八號

明治三十三年二月ヨリ東京砲兵工廠弘前派出所ヲ弘前陸軍兵器支廠内ニ大阪砲兵工廠金澤派出所ヲ金澤陸軍兵器支廠内ニ同姫路派出所ヲ姫路陸軍兵器支廠内ニ同丸龜派出所ヲ丸龜陸軍兵器支廠内ニ置ク

明治三十二年十二月二十七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第五十九號

明治三十三年陸軍第六十九號達臂章圖別紙ノ通改正ス

明治三十二年十二月二十七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別紙)

(四分一縮寫)

臂 章

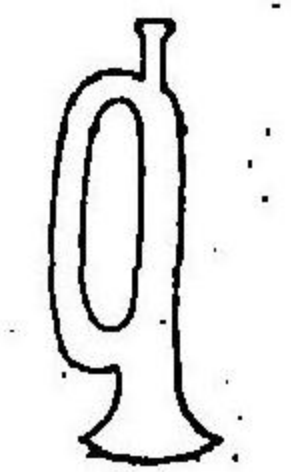
藥劑監  
衛生部 藥劑官  
調劑助手



獸醫部  
上長官  
士官



喇叭長  
喇叭手  
喇叭卒



火工掛  
下士





砲兵鞍工長		砲兵銃工長		砲兵木工長		砲兵鍛工長	
騎兵 砲兵 輜重兵	砲兵蹄鐵工長 	砲臺監守ノ下士 	縫工長 縫工 	靴工長 靴工 	衛生部下士候補生 	備考 形状尺度如圖但品質ハ排減トス	

○海軍省達第百八十九號  
海軍下士卒身上取扱規則中左ノ通改正追加ス

明治三十二年十二月一日

海軍大臣山本權兵衛

第二條ノ割註シ兵名ノ上ニ徵兵ハ徵兵ト書ヲ「兵名ノ上ニ入」ニ改ム  
第三條ヲ左ノ通改ム  
第三條 海兵團ニ於テハ前條ノ通知ニ基キ別紙様式ニ依リ再服役許可人員調ヲ作り所管鎮守府ヲ  
經テ海軍省軍務局ニ報告スヘシ  
第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第五條ノ二下士卒ニ轉勤ヲ命シタルトキハ其ノ出發ノ時ヲ以テ所屬ヲ變更スルモノトス  
第十九條ノ次ニ左ノ再服役許可人員調様式ヲ加フ  
再服役許可人員調様式

官職等級	滿期人員	再服役許可人員	滿期者百人ニ對スル再服役者ノ數	記	事
合					
計					

〔參照〕

海軍省達第九十七號海軍下士卒身上取扱規則(明治三十一年六月二十三日抄録)  
第二條 艦團長其ノ他下士卒ヲ直轄スル各部ノ長ハ毎月再服役ヲ許可シタル下士卒ノ官(職)氏名(兵名)ノ上ニ徵兵ハ徵兵ト書ヲ取纏メ各其ノ本人ノ籍ヲ管スル海兵團ニ通知スヘシ  
第三條 海兵團ニ於テハ前條ノ通知ニ基キ再服役許可人員調(再服役者及徵兵)及滿期免役人員調(官職)氏名(兵名)ノ上ニ徵兵ハ徵兵ト書ヲ作り所管鎮守府ヲ經テ海軍省軍務局ニ報告スヘシ  
○海軍省達第百九十號  
靖國神社例祭參拜等ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム



明治三十二年十二月一日

海軍大臣山本權兵衛

- 一 毎年五月六日及十一月六日ノ例祭ニハ在京海軍軍人及文官ハ例時刻參拜スヘシ  
但十一月六日ハ勅使參向ニ付下向ノ後參拜スヘシ
- 二 同日品海及地方所在海軍各部艦團及學校練習所等ニ於テハ遙拜式ヲ施行スヘシ
- 三 例祭當日海軍一般事務休暇ス
- 四 五月七日午後及十一月七日午後靖國神社ニ於テ餘興奉納ニ付在京海軍各廳勤務ノ暇ハ便宜參  
觀スヘシ
- 五 軍樂隊差出方及其他臨時要スル儀制ハ其都度令達スル所ニ依ルヘシ

○海軍省達第九十一號

明治三十一年<sup>四</sup>達第五十九號海軍軍醫官服務規則中別冊ノ通改正ス  
但別冊ハ之ヲ要スル向ヘ配付ス (別冊略ス)

明治三十二年十二月六日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第九十二號

明治二十四年達第八十四號貸與品表中ヘ左ノ一廉ヲ加フ

明治三十二年十二月六日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第九十三號

品名	所要記事
洗面器 共用	亞鉛製 候補生實地演習ノ爲メ乘艦ノ時

明治三十年達第四百四十八號海軍文官進級增俸取扱規則第六條中「臨時」ノ下ニ「進級若ハ」ノ四字ヲ追  
加ス  
明治三十二年十二月十二日  
海軍大臣山本權兵衛

〔参照〕

海軍省達第四百四十八號海軍文官進級增俸取扱規則(明治三十年十月二十五日)抄錄  
第六條 前條條ニ依リ離キモノアルトキハ其理由ヲ具シ臨時增俸ヲ具申スルコトヲ得

○海軍省達第九十四號

海軍各學生生徒及練習生ニ授與スル證書及證狀書式中左ノ通追加ス

明治三十二年十二月二十三日

海軍大臣山本權兵衛

第二十號書式

第二十一號書式

第 號 卒業證書

海軍主計官練習所學生

官 姓 名

大日本帝國海軍主計官練習所學生教程卒業ヲ證ス

年 月 日

海軍主計官練習所長官位勳功爵姓名 印

第 號 卒業證書

海軍主計官練習所練習生

官 姓 名

大日本帝國海軍主計官練習所練習生教程卒業ヲ證ス

年 月 日

海軍主計官練習所長官位勳功爵姓名 印



明治三十二年十二月 達 海軍省第百九十五號 第百九十六號 第百九十七號

四七四

○海軍省達第百九十五號

明治三十一年五月達第八十二號中水雷術練習所ノ次へ左ノ通追加ス

明治三十二年十二月二十七日

海軍大臣山本權兵衛

主計官練習所學生並練習生 金五十圓

〔參照〕

明治三十一年五月十日 海軍省達第八十二號ハ學生生徒並練習生卒業證書授與式執行ニ要スル一切ノ費用處辨定額ノ件ナリ

○海軍省達第百九十六號

當分ノ内四等水兵四等機關兵ニシテ練習又ハ實地研究ノ爲メ艦船乗組中ノ日數ハ特ニ海上勤務ニ算入ス

明治三十二年十二月二十七日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百九十七號

鎮守府司令長官若ハ工場ヲ管轄スル廳長ハ明治三十二年勅令第四百四十八號ニ依リ定時間外ニ服業スル技手ニ毎年度令示豫算定額ノ範圍内ニ於テ適宜別表金額以内ノ額ヲ給與スルコトヲ得但定時間外トハ明治三十一年達第七十九號執務時間外ヲ謂フ

前項ノ金額ハ每月末ニ之ヲ支給ス

本達ハ明治三十三年一月一日ヨリ施行ス

明治三十二年十二月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

(別表)

定時間外服業日額表

等級	時間	二時間以内	四時間以内	四時間以外
一級	俸	參拾五錢	五拾錢	六拾錢
二級	俸	參拾錢	四拾五錢	五拾錢
三級	俸	參拾錢	四拾五錢	五拾錢
四級	俸	參拾錢	四拾五錢	五拾錢
五級	俸	參拾錢	四拾五錢	五拾錢
六級	俸	貳拾五錢	四拾錢	五拾錢
七級	俸	貳拾五錢	四拾錢	五拾錢
八級	俸	貳拾錢	三拾五錢	四拾錢
九級	俸	貳拾錢	三拾五錢	四拾錢

公暇日ニ服業セシムルモ明治三十一年達第七十九號執務時間外ニ及ハサレハ本表ノ金額ヲ支給セス

○海軍省達第百九十八號

建築工場詰判任官以下ノ執務時間ハ明治三十一年達第七十九號ヲ適用ス

明治三十二年十二月二十八日

海軍大臣山本權兵衛



23

明治三十二年十二月

四七六



